

関連学会印象記

第12回 Annual Meeting of Society of Cardiovascular Anesthesiologists

藤田 昌雄*

今回はフロリダ州オーランドで1990年5月13～16日の4日間開催された。オーランドといえば、ディズニーワールドで有名であり、またケネディスペースセンターへは1時間半のドライブで行ける絶好のリゾート地である。会場は Marriott's Orlando World Center という部屋数1500を持つ巨大なリゾートホテルであった。プールが5つ、18ホールのゴルフコースがホテルを取り囲んでいる。オーランド市とは離れた所にあり、学会出席者は会場で勉強するか、あきたらプールで泳ぐか日光浴をするか、またはゴルフをプレーするしかない所である。参加者はスーツにネクタイの正装から半ズボンにスニーカーという軽装に至るまで、いかにもリゾート地での学会というリラックスムードであった。

会長はカナダ、オッタワ大学心臓研究所のL. E. Wynands 教授である。この学会の出席者は、毎年増加の傾向にあるようで、今年は950人ということで、ホテルはこの位の人数の学会を優に収容する会場と、さらにポスター展示と85社の機械展示場のスペースを持っていた。本学会の会員数2600人からすると、出席率は大変よいといわねばならない。一般演題は200題を越す応募の中から17人の査読者により、口演44題、ポスター120題、計164題が選ばれている。

第2日目の朝からプログラムが始まったが、他の併列のプログラムなしに皆が一堂に会して行われたシンポジウムは今回はただ1つだけで、Transesophageal Echocardiography であった。このプログラムの編成からみると、少なくともこれが今回の学会のメインピックのように思われ

た。

まず Duke 大学内科の Kisslo は、エコーとドプラカラーフローの診断的とモニターとしての意義を強調し、echo gain と color gain の調整次第では、ときに重要なサインを見落とすことがある事と、器械操作上の注意点など基本操作について例を示して解説した。右冠動脈、左主冠動脈を color flow で美しく示していた。UCSF の Cahalan は、心筋虚血部の壁運動異常の発見が容易であるのみならず、PCWP より LVEDV をよく反映し、LV の filling と ejection の評価で TEE は威力を発揮するとして、術中の麻酔医による本法の有用性を強調した。Duke 大学 de Bruijn は、弁疾患について、弁置換後の結果の判定、LV 機能、局所運動、さらに空気塞栓や心内シャントの有無の発見などについての有用性をのべた。最後に同大 Clement が、米国麻酔医に出したアンケートの結果の一部を公開したが、驚いたことに麻酔医の心エコーについての経験は1年以内が殆どで、3年は殆どなく、米国でもエコーは麻酔科領域においてはまだ緒についたばかりで、それ故にこのような具体的なシンポジウムをもったのかもしれない。心エコーに関する文献はかなり数多く米国より発表されているようであるが、実際の臨床とはかなりの差があることが判った。

このあと、会場は3つに別れ、Management dilemmas in pediatric cardiovascular anesthesia, New issue in cardiopulmonary resuscitation, New treatment of cardiopulmonary bypass induced coagulation defects が行われた。このうち C-P resuscitation の一部をきいたが、Johns Hopkins 循環器内科の Guerci は Carbicarb (重

*東京女子医科大学麻酔学教室

曹と炭酸ソーダの等モル混合液)は、PCO₂の上昇を防ぎ、PHを上げるとして、重曹よりもアシドシスの補正によいのではないかということを示した。ただ動物実験の段階でヒトにはまだ使用されていないとの事である。午後の Treatment of complex intraoperative dysrhythmias, 2日目の Management of postoperative thoracotomy pain は教育講演的な内容であった。2日目午後の New forms of inotropic therapy では、Phosphodiesterase inhibitor の Amrinone に焦点をあて、基礎面と臨床面の講義があった。Utah 大学 Bristow は、β受容体の down-regulation の状態にある心不全に対して、partial agonist である dobutamine に amrinone を併用すると、夫々の単独の使用よりも、心筋内β受容体の反応性を回復させ、かつβ受容体経路の“recoupling”によって、心筋張力の増加と血管拡張を来し、より

効果的であることを示した。より新しい enoximone, milrinone については多く触れなかった。

総じて今回の学会はすべての点で教育講演的な内容が多く、今までより多少低調な印象を受けた。来年からのプログラム委員長は Daniel Thys である。

会期中に国際交流委員会が開かれた。この9月ブタペストで行われる第3回国際心臓血管麻酔学シンポジウムは登録者が今のところ100名に満たず、かつ東欧での拠金が困難なことから、第1回と同様 SCA としての負担がかなりかかるのではないかとの懸念が表明された。それにつけても席上、我々が開催した神戸での第2回シンポジウムは、今もって高く評価されており大変喜ばしいことである。次回 SCA 総会は1991年5月5～8日、San Antonio で行われる。

* * * * *

* * * * *

* * * * *